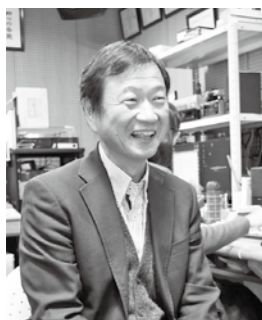


不変のテーマ「生きる」

おくの いさむ
奥野 勇 実行委員長 (CMプロデューサー)
第1回大会から一貫して発信してきたテーマ「生きる」は丹波篠山ビデオ大賞の不変のテーマです。人々の



「心」が懸命に生きる姿に触れたとき、共感・共鳴し、生きる勇気やエネルギーをもらいます。

この大会を通して、自分自身も大きなエネルギーを受けてきました。ビデオ大賞にはすてきな発見があります。ぜひ、会場でご覧ください。

映像は芸術文化

にしぎきよしはる
西垣吉春 審査委員長 (映画監督・丹波篠山ふるさと大使)

丹波篠山ビデオ大賞が求めるのは、アマチュア目線でプロの目が届かない、気を留めないような皆さんの身の回りのこと、作者自身が大切にしたいことの表現です。作者の目線や人生観などが作品に現れ、一生懸命つくりあげた作品は必ず感動を呼ぶと信じています。



心に残る映像は芸術文化として大切に保存され、未来に価値を深めていきます。ぜひ、映像作りを通してモノの見方や広がりを感じてほしいと思います。

第30回記念大会 全国アマチュアビデオコンテスト 丹波篠山ビデオ大賞

【第1部】 9:30 ~ 映画「森の学校」上映会
篠山市名誉市民の河合雅雄さん原作の「少年動物誌」をもとにした映画。昭和10年代初頭の丹波篠山が舞台です。

【昼休憩】 11:30 ~
しし汁のふるまい、パン・とふめしの販売

【第2部】 13:00 ~ 丹波篠山ビデオ大賞決勝大会
全国のアマチュアビデオ作者から寄せられた映像作品を放映・表彰。ささやま自慢の映像を集めた「チャレンジ部門」もお見逃しなく!

2月3日(日) 9:00開場
たんば田園交響ホール
入場無料



■問い合わせ 丹波篠山ビデオ大賞実行委員会事務局 (視聴覚ライブラリー内) ☎590-1301

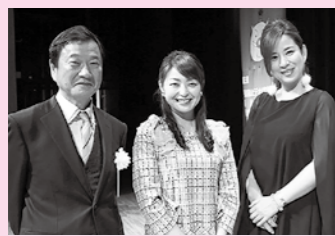


第30回記念大会

今を伝える!未来へつなげる 丹波篠山ビデオ大賞

平成とともに始まった「丹波篠山ビデオ大賞」は、今年で30回目の記念大会を迎えます。皆さん、平成の30年間はどのようなドラマを描いてこられましたか。時代は今、すさまじい勢いで変化しています。ビデオはその時代の姿や人生のドラマを描き、次世代に伝えます。ときには地域の魅力発見にもつながります。ぜひ、映像を通して、より心を豊かにしてみませんか。

人が好き まちが好き
街かど Report
レポート



ゲスト司会の熊谷奈美さん(写真中央)



グランプリ部門発表



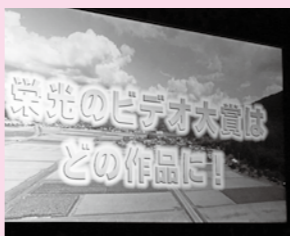
チャレンジ部門表彰



ドリンクサービス



審査委員による公開審査



決勝大会開始



しし汁のふるまい



スタッフスタンバイ

ビデオ大賞決勝大会の一日の様子



映像で心豊かに
私の息子が小学生のころ、PTA活動でビデオ撮影や編集に携わり、ビデオカメラに魅力を感じるようになりました。そこで、ビデオ大賞実行委員会となり、8年間スタッフとして参加しています。
会場で作品を見ると、迫力のスクリーン、臨場感あふれる音響に加え、作者の思いの詰まった作品で感動いっぱいになります。何げない日常の中にこそ、さまざまな出会いやドラマがあり、みんながドラマの主役なのだと感じます。そんなかけがえない今をビデオで未来につなげられたらよいなと思っています。
今回、西垣監督の映画「森の学校」が上映されます。映像と丹波篠山の魅力を通して、心豊かなひとときを過ごしませんか。皆さんのご来場を心からお待ちしています。

全国に誇るビデオ大会
ビデオ大賞は、全国規模のアマチュアビデオコンテストで、ビデオ作品を作る方も観る方も、映像を通して豊かな暮らし、豊かな人づくりを目的に開催しています。
第1回は「兵庫県ビデオ大賞」という名称で兵庫県主催で行われ、第2回からは旧丹南町が引き継ぎ開催してきました。第11回からは多紀郡4町の合併により、名称を「丹波篠山ビデオ大賞」に変更。時代に多様に対応しながら、映像文化における実績を積み上げてきました。
募集作品のテーマはグランプリ部門が「生きる」、チャレンジ部門は「ささやま自慢」で、30回目となる今回、全国から計41本の作品が寄せられ、事前審査を経て決勝大会が行われます。決勝大会ではグランプリ部門7作品、チャレンジ部門9作品の放映、公開審査により各賞が決定されます。
また、全国から集まる作者や来場者の皆さんには、歓迎の気持ちを込めて、実行委員や市内の高校生ボランティアなど、総勢50人のスタッフが「おもてなしの心」で心温まる決勝大会の運営を目指しています。映像だけに限らず、丹波篠山の魅力を味わっていただけるように努め、ビデオ大賞を開催します。